

計測会報告

計測会:「海外研究発表者への支援金給付」のご紹介

計測会は活動の一つに学生への支援を掲げています。23年度から新たな学生支援の取り組みとして、「海外研究発表者への支援金給付」をスタートしました。研究交流を通し海外の人との触れ合いがふえればと、国際会議で研究発表をする学生へ支援金を給付します。

支援金を受ける資格は、物理工学系プログラム応用物理分野の研究室で、博士前期課程または博士後期課程に在籍し、且つ海外研究発表の登壇者であることです。受給者の定員は年度ごと2名で、前期と後期にそれぞれ1名を募集します。支援金は一人当たり5万円で、用途は、海外渡航の準備、渡航先での懇親会などの研究交流です。

実績ですが、23年度は1名の方、物理工学系プログラム応用物理分野博士課程前期の吾妻真光氏に支援金を給付しました。これから実績を積み上げ、この支援活動の定着を図ってまいります。

尚、支援金受給者は、支援金を受けた海外研究発表の経験などを計測会へ寄稿し、計測会はその稿を、会のホームページに掲載します。

以下に、受給者吾妻真光氏からの寄稿文(抜粋)を掲載します。吾妻さんの高揚感が伝わってきます。

『この度、計測会から海外研究発表支援金をいただきました。2023年5月29日から5日間に渡って開催された European Materials Research Society(E-MRS)2023 Spring Meeting に参加しました。

学会の開催地はフランスのストラスブールで、昔ながらの建築様式のヨーロッパらしい建物が多い街です。私は海外渡航すら初めてでしたので、さらに英語で研究発表を行なうとなると、不安がなかなか頭を離れませんでした。それでも列車を降り、宿泊先に向かって歩いた時には、ストラスブールの美しい街並みが心を踊らせてくれました。

私の研究分野は原子スケールでのコンピュータシミュレーションです。発表を無事終えて、質疑応答でも一通り回答できたものの、もっと英語力があればより深く議論できたであろうことが惜しく、英語力の向上が今後の課題です。

E-MRS は、2023年で40周年記念だったようです。学会期間中の昼食にはコース料理が提供され、最終日の夜には会場前の広場でお酒や食事が振る舞われました。毎度現地の料理が楽しめたことに加えて、参加者同士でコミュニケーションがとれる機会も多く、初の学会参加と周年記念が重なったのは幸運だったと感じます。

博士後期課程進学後も海外での研究発表や留学を積極的に行いたいと思います。』

記:計測会会長 寺倉 修(F50)



右から3番目が支援金を受給された吾妻真光さん
学会会場前での集合写真